

2009年度

科目名	芸能鑑賞法Ⅱ			コード	22370
担当教員	高橋 圭一			単位数	2
配当	日文1	講時	火曜日2限	単位数	2
開期	後期	講時	火曜日2限	単位数	2
授業テーマ	講談という古典芸能に触れ、好きになる。				
目的と概要	講談は江戸時代初期に誕生し、明治・大正・昭和戦前に至るまで人々に愛好された芸能である。姉妹芸である落語に比べ今は影が薄い、実は魅力と可能性に溢れた芸能であることを理解する。実演に触れる機会も設ける。				
成績評価法	講義終了時のレポートを最も重視するが、平常点も加算する。				
テキスト	毎回コピーを配布する。				
参考書	授業中、随時紹介する。特に在野の講談研究者、吉沢英明氏の著書(『講談作品事典』私家版など)を多く使用する。				
履修に当たっての注意・助言	漫才は一分で笑えるが、講談は短くても二十分はじっくり聞きこまないと面白くならない。				
講義計画					
<p>原則として前半は講義、後半は講談鑑賞にあてる。順不同であるが、落語の「くっしやみ講釈」(桂枝雀)、五代目宝井馬琴「三方ヶ原合戦」同「伊達政宗の堪忍袋」、二代目旭堂南陵「太閤記より矢矧橋」、六代目神田伯竜「子猿七之助」、六代目一竜斎貞水「百万両宝の入船」、六代目宝井馬琴「川中島の合戦」、四代目邑井貞吉「正直車夫」、三代目神田松鯉「殿中松の廊下」、神田紅「春日局」、神田すみれ「白隠禅師」、三代目神田山陽「安兵衛駆け付け」、旭堂南海「荒大名の茶の湯から大谷刑部」ほかを用意している。また本職の上方講談師を本学に招いて実演してもらい、生の講談を聴く。</p> <p>第1回 おそらく受講生にとっては落語のほうが身近であろう。落語と講談の違いについて。</p> <p>第2回 これまで何度も来学していただいた旭堂南海先生の講談のビデオを鑑賞する。</p> <p>第3回 講談の始まりについて、諸説の紹介。</p> <p>第4回 続き。「太平記」読みについて。</p> <p>第5回 江戸中期の講談師。馬場文耕。</p> <p>第6回 続き。文耕と森川馬谷。</p> <p>第7回 続き。志道軒。</p> <p>第8回 江戸後期の名人たち、その逸話など。桃林亭東玉。</p> <p>第9回 続き。石川一夢他。</p> <p>第10回 続き。初代神田伯山と天一坊。</p> <p>第11回 明治の名人、松林伯円。</p> <p>第12回 続き。</p> <p>第13回 上方の名人、二代目旭堂南陵。</p> <p>第14回 講談師来演。</p> <p>第15回 講談師来演。(二回来てもらうが、第何回目になるかは未定。決まり次第公示する)</p>					